

河野将磨「一発合格～司法試験に最短合格したコスパの良い勉強法とは！？～」

0.自己紹介

法科大学院修了年度：令和 3 年 既修

受験回数：1 回

選択科目：租税法

1.はじめに

このタイトルに食いついて読んでしまった皆さん、今すぐ“悔い改めて”ください。というのは半分冗談ですが、司法試験の勉強に「コスパ」や「近道」なるものはなく、地道にやっ
てかなければならないというのが持論です。もっとも、予備校等を利用せずに司法試験に 1
回で合格したというのは事実なのでこれを読んでいる皆さんに少しでも役に立つ情報をお
届けできればと思います（長文なので必要箇所だけ読んでいただいても良いです）。

2.法科大学院受験について

私が法科大学院進学を決意したのは大学 3 年生の時でした。私の大学は法と名前が付い
ているものの、一般的な法学部に比べて法律科目が少なく、自学自習のみで頑張った科目も
ありました。主に、リーガルクエストなどの基本書をノートにまとめたり、判例百選の通読
をしたりしていました。特に判例百選は問題の題材にされることも多いので事件の概要と
判決を中心に読んでおくとういと思います（司法試験の勉強もでもそうですが）。

3.法科大学院時代での勉強について（+選択科目について）

まず、私は時間に縛られるのが嫌いで、何時から何時まで何時間勉強すると決めて勉強
するのが嫌でした。なので 1 日何時間勉強していたか聞かれてもちゃんと答えられませんが、
授業を除けば大体 3～4 時間、試験直前は 6～8 時間ほど勉強していたと思います。普
段は司法試験の勉強というよりは授業の予復習に負われていたのでそちらを中心にやって
いました。期末試験対策は、まず授業レジュメをノートなどにまとめてそれを何回も読ん
で覚える、過去問を 3 年以上解き（簡単な答案構成などが主でした）、講評を読むといっ
た感じでした。

選択科目についてですが、私は租税法を選択しました。きっかけは木山先生の「小説で
読む租税法」を呼んで面白いなと思ったからです。興味がある方は是非一度読んでみてく
ださい（回し者ではありません）。3 年生から税法を始めたのですが、租税法は 1 年で合格
レベルに到達できたので、とてもコスパのよい科目だと思います。確かに、税法の条文や
税制はとっつきにくく難しいと感じる人も多いと思います。しかし、それを理解すればそ
れ以上に難しい問題が出てくることはなく、また、覚える範囲もとても少ないので、暗記
が苦手な人には特におすすめです。あと、例えば就活などで税法が得意ということができ

るので他の就活生と差を付けられるところもおすすめポイントです。興味がある人は是非税法1だけでもいいので受講してみてください。

4.司法試験対策について

ほぼここからが本題なのですが、司法試験の勉強を本格化させたのは3年の夏休みからだと思います。司法試験の勉強で最も大事なことは毎日法律に触れることだと思います（私が読んだ合格体験記では、熱が出ても最低短答を10題解いていた方もいました）。法律に毎日触れていないと感覚が鈍ってしまうので、最低基本書を1章分読むというだけでも良いので毎日継続的に勉強をすることが大事だと思います。

直前期に入るまでは友人とゼミを組んで問題集や過去問を解くことを中心に勉強していました。個人的にはゼミを組むことはとても有用だと思います。まず、他の人と問題集等に取り組むのでダレることなく問題をこなすことができます。また、自分ではわからないところは友人と話し合うなどして解決でき理解も深まります。また、私はあまり情報通ではなかったので友人から得られる司法試験や予備校の情報はとても助かりました（ここで情報を得られれば予備校に行かなくても良くなります（笑））。なのでゼミを組んで勉強することをお勧めします。

司法試験対策の内容ですが、①まとめノート、②過去問、③判例（百選）の確認、④論証の暗記、⑤短答対策をやっていました。まず、①についてですが、これは人それぞれまとめ方があると思いますが、知識を自分なりに体系化することで理解が深まるので作ることをお勧めします。ちなみに私は学部生時代に基本書の情報をまとめたものと、過去問で出た論点の論証をまとめたノートを作りました。特に司法試験では後者を使いましたが、論証集を全部まとめるのはすごく大変だと感じたので（面倒くさがり屋なので）、せめて過去問や問題集等に出てくる分野に絞ってまとめようと思いました。②について、世間では3～5年分解けば十分などと言われていますが（個人調べ）、ゼミでは旧司法試験、予備試験、新司法試験全部を解きました。正直めちゃくちゃ大変でしたがおかげで本番では焦ることなく問題を解くことができたので気力があれば是非挑戦してみてください。ちなみに、論文を書く際に意識したことは「“以上”を書き切る」です（他の合格体験記の受け売りですが）。論文試験は何か書かないと点数になりません。確かに模範解答通りに書けば点数がもらえますが、それが唯一の回答ではないので、その通りに書かなくてもある程度理論立てて書いてあれば点数になります。なので、普段から自分なりの答案をひねり出して書く練習をすれば本番でも役立つと思います。答案を書くのが難しいという人はとりあえず模範解答を写経するだけでも答案の書き方をつかむことができるのでとにかく書くことをお勧めします（個人的には答案をパソコンで答案を作成すると手書きよりも早くでき、まとめノートをパソコンで作成している場合はそこにすぐ編集できるのでお勧めです）。過去問は無料で見れる良教材なので“コスパ”が良いです。③について、2でも書きましたが司法試験では「設問が何の判例に近い事案か」を考える事が高得点に繋がります。

また、単に判旨を暗記するだけでなく、判例の射程も含めて押さえるとより効果的です（特に憲法）。④について、市販の論証集をまとめノートに自分なりにまとめて、それを暗記しました。直前期はそのノートを毎日読んで回すという勉強をしていました。これは直前期に集中してやれば十分だと思うので（というか毎日論証集見ると飽きるので）とりあえず、直前期前までは論証集をしっかりまとめることに注力した方がよいと思います。⑤について、過去問を2周くらい回すことと、六法を通読するといった勉強をしていました。もっとも、後述の通り短答は悲惨だったので他の合格者の勉強を参考にした方がよいと思います（笑）。

あと、休憩についても書いていきたいと思います。あまり参考にはいけないかもしれませんが、私のモットーは「やりたくないことはしない」なので、いかに司法試験の勉強が嫌にならないかという点は重点を置いていました（勉強をやりたくなくなってしまうため）。上記ではいかにもといった感じで書いていますが、正直、直前期に憂鬱になってほとんど勉強をしていない時期もありましたが、嫌な気持ちで10時間やるよりも集中できる状態で1時間やる方が身につくと考えているので、皆さんもあまり勉強時間に縛られず、楽しんで勉強に臨んでください（試験勉強は楽しくないと思いますが（笑））。

ちなみに、私は予備校の答練や模試を受けていませんが、特に本番で困ったことはありませんでした。個人的には上記の勉強で十分対応できるのではと思うので、受けようか悩んでいる人は受けなくても良いと思います（予備校等は通っている人も少なくありませんし、謳い文句は不安を煽ってくるので怖くなってしまいましたが、自分に合わなければいなくていいと思います）。

5.司法試験当日について

まず、私は東京で受験したのですが、ホテル選びから困ると思います。私は本番1ヶ月前に予約しましたが意外と直前でも間に合うのでそこまで焦る必要はないと思います（直前まで空いていることを保証するものではありません）。ちなみに三井ガーデンホテル五反田に宿泊しました。個人的には高いホテルでしたが（ホテルの高さ的にも値段的にも）、快適な部屋で、かつ露天風呂もあるのでとても快適に過ごせました。ホテルに泊まるという方は多少高くなっても、長い期間泊まることを考慮して自分が快適に過ごせるホテルを選んだ方がよいと思います。

試験前日及び当日は「落ちる前触れなのでは？」と疑うくらい意外とぐっすり眠れました。なぜだろうと考えましたが、おそらくいい意味で諦めていたことと、自分に自信があったことが要因なのではないかと考えています。当時は、「落ちても別の仕事に就けばいい（2回目受験するつもりはありませんでした。）」と思っていたこと、「過去問もいっぱい解いたし、論証も飽きるまでやったから大丈夫だろう」とある程度の自信を持って臨んでいました。

試験本番では上記の通り、過去問で見た問題が多く、あまり焦らず解くことができました。

た（民事訴訟法に至っては20分くらい時間を余らせて終わることができました）。一方、短答は思った以上に苦戦しました（答えが同じになると「本当にあっているのか」と心配になり良いパフォーマンスができなかったのが原因だと思います）。ちなみに、私は試験が始まる前に、印を結ぶ（「臨兵闘者…」）→試験が始める3分前は目を瞑る→始まってすぐに始めず他の人が問題を開いたら自分も始めるといったルーティーンをしていました。皆さんも試験前のルーティーンやお守りがあると本番緊張せずに臨めるかもしれません。

6.合格発表までと就活について

6月になると短答の結果が返ってきます。私の成績は、とりあえず合格していたものの、なんと「104点（3060人中2189位）」。正直不合格を覚悟しましたが論文には自信があったのでそこまで落ち込みませんでした。とはいっても、他の阪大生は120点以上を取っていたと聞いていたので結構憂鬱になっていました。もっとも、司法試験受験後にバイトをしていたこともあり、いい感じに気分を紛らわせられました。皆さんも、司法試験後は何か法律以外に気を紛らわせられるものがあると良いかもしれません。

また、就活について、早い人だと在学中にやっている人もいますが、司法試験合格後にやる人が大半なのでそこまで焦る必要はないかと思います。もっとも、司法試験後に就活する人はあまり多くないのでこの時期に始めるとよいと思います。私も短答の点数が良くなかったこともあり、本格的にはやりませんでした。事務所説明会やサマークラークには参加していました。最低このくらいは参加しておく合格発表後の就活も有利に進められるかもしれません。あと、面接では「学生時代に力を入れたことは？」「司法試験以外に頑張ったことは？」といったことを聞かれます（ほぼ伝聞ですが）。司法試験の勉強のみに集中するのは“コスバ”がいいのかもしれませんが、こういった質問が来ると結構厳しいのではないのでしょうか。別に就活対策でというわけではないですが、在学中から色々な経験をするのが重要だと思います。

7.最後に

ここまで読んでいただきありがとうございました。このような駄文でも皆さんのお役に立てたなら幸いです。つらつらと書いてしまいましたが、要は基本書・判例を読む、過去問を解く、論証を覚えるを徹底すれば例えば予備校に行ったり何か特別な勉強をしなくても合格は可能であると思います。ちなみに、“コスバ”を強調したのは、学生委員をやっていた時に学部生やロー生の質問に答えるという機会を設けた際、「この科目は司法試験に役立ちますか」「司法試験に役立つ勉強を教えてください」といった質問を見かけ、気になっていたからです。確かに司法試験に合格するためにそれに直接関係ないものを捨てるということに限られた時間を有効活用するという意味で大事ですが、法科大学院の授業に（限ったことではないですが）無駄なものなどなく、何等かの形で役立つはず（仮に司法試験に

は役に立たなくても、法曹になったとき等にも役立つと思います)。とにかく言いたいのは「”コスパ馬鹿”になるな」ということです。法科大学院での貴重な時間でいろんな勉強（と称してもよいですが）をしてみてください。きっとその経験が司法試験やその後の人生にも繋がると思います。

以上